

研究テーマ

「多摩市胃ろうネットワーク」の構築

申請者 多摩市胃ろうネットワーク代表 多摩南部地域病院 院長 小池順平
所属機関 東京都保健医療公社 多摩南部地域病院
所在地 東京都多摩市中沢 2-1-2
提出年月日 2007 年 8 月 29 日

研究テーマ 「多摩市胃ろうネットワーク」の構築

申請者 多摩市胃ろうネットワーク代表 多摩南部地域病院 院長 小池順平
所属機関 東京都保健医療公社 多摩南部地域病院
所在地 東京都多摩市中沢 2-1-2
提出年月日 2007 年 8 月 29 日

< 目 次 >

はじめに

●研究の背景と目的

多摩地域の特徴と多摩市医師会

発足経過

目的・目標

- 1、各施設間機能別連携
- 2、胃ろうに関する知識とケア能力の向上

●活動内容と成果

方法と結果

- 1、ホームページ作成と公開
- 2、定例会議(議事録のメンバー以外へ発信)
- 3、職種別及び市民セミナー実施と結果
- 4、マニュアル作成と活用

●多摩市胃ろうネットワーク(構築)の小括

●今後の課題と活動方針

計画 1: 多摩胃ろうセミナー及び研修会

計画 2: 多摩胃ろうネットワークの拡充

*添付資料

- 1) 多摩胃ろうネットワークホームページ
- 2) アンケート結果(1回から 4 回のセミナー)
- 3) 市民公開講座の結果
- 4) 多摩胃ろうネットワークの手引き

はじめに

○「多摩市胃ろうネットワーク」の構築に関して、2006年度勇美記念財団の在宅医療助成金を手に出来たことは設立間もないネットワークにとって は望外の喜びであった。

○任意団体であり、実績もなく、お金も考えずに“胃ろうのネットワーク”の必要性のみで後先考えずに動き出した矢先でもあり、助成金のみならず市民権を得た活動なんだとの納得も出来た。それだけに動きは熱っぽく、エネルギーでもあった。同じことは多摩市医師会の下で、ホームページ作成に際し資金援助を含めた数々の便宜に支えられたことも同様であった。

○その一年の整理まとめであるが、最大の特徴は調査研究ではなく、地域にネットワークを構築することがゴールであること。従って、胃ろうにまつわるネットワークとして体裁を整える最低の条件を確立することからスタートした。相談窓口の統一、確立(各施設がどういった受付部署及び担当者)であり、受付シートフォーマット化(診療情報提供書)に始まった。

○強いて言えば、本研究テーマは胃ろう造設・管理に伴う様々な問題解決型として多摩地区における胃ろう(医療)ネットワークの構築というケーススタディそのものである。従って、今は終りなきネットワークの拡充であり、当面は進行形で正直なところ定まるところが見えてこない。

○しかし、胃ろうの造設、管理に伴う地域的な仕組み作りは各病院間の医療資源・ノウハウの公開と共有化という前提抜きにしては語れない。その一歩は参加メンバー施設の経営サイドと医師、看護師などの関係者の協力の賜物であり、参加メンバーは分け隔てなく実行に移せた。

○その成果は“多摩市胃ろうネットワーク”に多くが掲載され、公開されている。また、必要な事項は殆どダウンロード可能になっており、デザインなどまだ まだであるが、是非、検索、閲覧して頂ければ幸いである。

<http://www.tama-med.or.jp/pegnet/Index.html>

「多摩胃ろうネットワーク」

●研究の背景と目的

[多摩地域の特徴と多摩市医師会]

多摩市は東京都においても高齢化率がトップクラスである多摩ニュータウンを抱えた人口 15 万人弱の住宅都市である。多摩市医師会には地域医療支援病院である多摩南部地域病院と救命救急センターを擁する日本医科大学多摩永山病院を含む 8 つの病院と 94 の医療機関がある。平成 13 年より「かかりつけ医推進事業」に取り組み多摩市民への情報提供を積極的に実施してきた。平成 12 年よりスタートした介護保険制度についてもかかりつけ医の役割を地域住民へ啓蒙しかかりつけ医としての役割を果たし病一病連携を推進している。

[発足経過]

平成17年 11 月多摩市医師会の8施設の病院の理事長・院長・副院長がからなる病院委員会の中で、医師会で行った「胃ろうの勉強会(PDN セミナー)」をきっかけに、多摩市で胃ろうのネットワークを作ることへの提案があった。多摩南部地域病院の副院長が中心になり、ネットワーク作りをする事となった。多摩市内に胃ろうの造設・交換を行っている施設は5施設あり、この 5 施設を中心に発足会議を立ち上げた。

[目的・目標]

1 各施設間機能別連携

多摩市の各施設間の情報を共有し機能別の連携を図る。(地域連携パスの作成に向けて連携する)

- ① 胃ろうのケアや造設に関して各施設にどのような機能があるのか情報を共有する。
- ② 各施設の胃ろうに関する相談窓口を決め、地域の医療機関や患者さんに情報提供できるようにする。

2 胃ろうに関する知識とケア能力の向上

多摩地域の胃ろうに関する知識とケア能力の向上を図り胃ろうの適正かつ安全な管理体制を整備し、摂食栄養管理の質の向上を目指す。

- ① 関係する施設や在宅関係者に研修会・勉強会・実習等を実施する。
- ② 可能な患者さんには経口摂取ができるような支援体制を構築する。

●活動内容と成果

[方法と結果]

1.ホームページ作成と公開

発足会議メンバーの 5 病院のデータベースを作成し、ホームページに公開した

○多摩市医師会<http://www.tama-med.or.jp/> の ホームページに「多摩市胃ろうネットワーク」として、現在各施設で実施している業務内容について機能別に分類し併せて各施設の相談窓口情報を掲載した。

2.定例会議(議事録のメンバー以外へ発信)

.多摩市胃ろうネットワーク会議として隔月に定例会議をもち、情報交換を行い各施設間の連携体制を強化した。会議録はメンバーの 5 病院以外にも地域の賛同施設に配信した。

相談窓口への連絡も多岐に渡り、地域の開業医からは PEG の交換に関する研修依頼や、障害者施設からは VF の見学希望などあり協議の結果、厚生荘病院・新天本病院で各々個別に受け入れることとなった。現在はセミナーを通して参加募集をした結果多摩市以外の近隣からも賛同施設登録をする医療機関が徐々に増えてきている。会議の中でも再三にわたり今後のネットワークのあり方を検討し、当初の目的・目標に向けてセーフティネットワークの構築を目指し討議を進め、地域連携パス作成の目的達成のためにも早急に、多摩市以外の近隣多摩エリアへネットワークを拡大する方向となっている。

具体的には、第 10 回の多摩市胃ろうネットワーク会議に、南多摩保健所も参加し、今後も継続して定例会に参加する事となった。また、歯科医師会の訪問歯科診療における摂食・嚥下リハビリとの連携も開始した。現在の八南歯科医師会との関わりは、摂食嚥下障害のある患者の在宅移行時に訪問診療を担当する歯科医師とのカンファレンスをもち、モデル事例の展開を始めたところである。事例展開を通して、作成する連携パスは、PEG の連携パス以外に摂食嚥下障害の連携パス作成も必要という意見がでており、9 月の定例会で取り上げる予定である。

3.職種別及び市民セミナー実施と結果

「多摩市胃ろうネットワーク」はこの一年、以下の如く、4 回に亘る PDN セミナー及び研修会で普及啓

発に努め、その締め括りとしてこの 6 月には「第一回、市民公開講座」“胃ろうってなーに？”を成功裏に終了した。この機会に実施したアンケートでもネットワークへの参加、胃ろうホームページへの登録（医）、地域連携パスへの参加意向など様々に確認できた。

[実施セミナー]

- 1) 職種別セミナー(セミナー時にアンケートを実施した)
 - ① 医師を対象としたセミナー2006年9月に1回
 - ② コメディカル・看護師を対象としたセミナー2006年10月・2007年2月に計2回
 - ③ ネットワーク内の病院職員を対象に院内セミナーを外部公開として実施 計1回
(2006年12月日本医科大学多摩永山病院において)
- 2) 市民対象セミナー(セミナー時にアンケートを実施した)
 - ① 一般市民対象の市民公開講座 2007年6月に1回

[考察と今後展望について]

地域全体での胃ろう管理能力の向上のために各々の病院の特徴を活用できる組織とその周知に向けて「ネットワークの誰かに聞けば何とかなる」という思いを関係者全員に周知できるように、セミナーを各施設で実施し事例検討を取り入れるなど、より現場の患者・家族・直接介護者の役に立つ実践的なセミナーを実施し一方、施設見学の受入など拠点施設の機能を理解してもらえよう開かれたネットワーク作りを目指したい。また、地域連携パスの作成により、地域の関係施設全体を包括したネットワークへの拡大を目指したい。

4. マニュアル作成と活用

当初からの目標であった胃ろうに関する正しい知識の普及のために参加メンバーが各々の専門知識を活用し以下の項目のマニュアルを作成しホームページ上に公開した。次に、インターネットの操作をなくとも、ケアマネ等胃ろうの相談担当者が患者とともに話し合うためのツールの一つとして「多摩胃ろうネットワークの手引き」を作成した。

作成したマニュアルの項目、

- ① PEG の造設と管理
 - ① PEG 造設に伴う合併症と対応法
ーもし胃ろうチューブが抜けてしまったらーなど
 - ② 摂食嚥下障害への対応ー嚥下外来を受診する前にー
アセスメントツール・スクリーニングテストと注意事項など
 - ③ 栄養剤の選び方。
選択フローチャートとフローチャート対応の栄養剤リストを独自に作成

今後参加医療機関・関係諸施設・訪問看護ステーション・ケアマネージャーなど在宅の関係者に配布し活用を図る。

●多摩市胃ろうネットワーク構築の小括

この一年、4 回に亘るPDNセミナー及び研修会で普及啓発に努め、その締め括りとしてこの 6 月には「第一回、市民公開講座」“胃ろうってなーに？”を成功裏に終了した。また一方で、内部的には都合 9

回の会合を経て、胃ろう造設・交換・管理の基幹病院としての体制作りに取り組んだ。(各施設の院内機能の公開、共有化及び役割分担や多摩市医師会の協力を得て専用ホームページ開設など)

- 1) 特徴的なことは参加者は施設参加者も広域から、また個人参加者もエリア的に広域プラス職業も医師、看護師、管理栄養士だけでなく、介護関係や保健所、行政など様々な立場の方々が関心を持って参加いただけたことである。とりわけ市民公開講座では仕事の関係者以上に一般市民の方々の参加を頂き、かなり関心領域としては重要なテーマであることを再認識した。
- 2) この機会に実施したアンケートでもネットワークへの参加、胃ろうホームページへの登録(医)、地域連携パスへの参加意向など様々に確認できた(下記の表図 2)。
- 3) 加えてこうした活動は「多摩市胃ろうネットワーク」への様々な問い合わせや要請となってきた。具体的には、摂食・嚥下障害セミナーグループへのネットワーク参画／南多摩保健所管轄の八南歯科医師会の参加／東京都病院協議会での地域連携パスの講演／都訪問看護ステーション連絡会議でのPRと研修交流の協力など。
- 4) また問題も山積し、より発展的な解消をしていかざるを得ない事柄も多く出てきている。全体的には「多摩市胃ろうネットワーク図」として概念化しているが、多摩市胃ろうネットワークの捉え方一つとっても、特定集団のネットワークなのか、地域ネットワークなのか。また、それがもたらす意味、施設であれば経営的な規模や拡がりにも問題があろうし、在宅医療を志向するのであれば在宅支援診療所としてサテライトの受け皿機能や訪問看護ステーションの充実などなど立場立場で温度差が見られることが判った。

●今後の課題と活動方針

計画 1: 多摩胃ろうネットワークセミナー及び研修会

昨年同様に、啓蒙啓発のために胃ろうセミナー及び研修会、市民公開講座の開催を目指す

①2007年10月25日 医師対象の造設管理のセミナーを開催し医師間の知識・技術の標準化と顔の見える関係作りへ一歩踏み出す。

②2007年11月7日14日 コメディカル・ケアマネージャー・看護師対象の造設後1週間を重点としたケア・管理のセミナーを実施する。併せてアンケート調査を実施し一人でも多くの現場の意見をくみ上げ、ネットワークへの参加を呼びかけネットワークで問題を共有し解決を図る方向に導く。

③2008年2月27日 南多摩保健所において初めての歯科医師会から講師を派遣してもらい当ネットワークのリハビリ科講師とともにジョイントセミナー「摂食嚥下障害についてと口腔ケア」を実施する。

今後は、演題についてもPEG・栄養管理全般に拡大し、基礎的な要素と応用編などへ拡大する。(医師を始め多摩地区人材の積極的な活用・交流も併せ図る)。

計画 2: 多摩市胃ろうネットワークの拡充

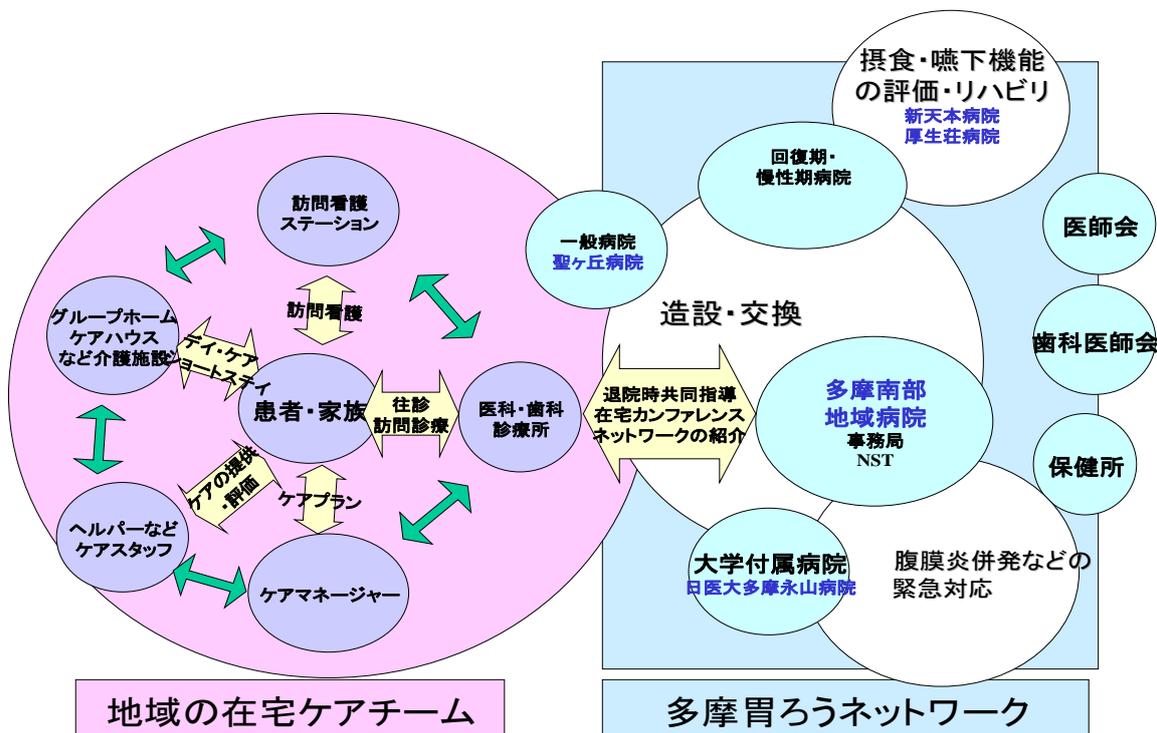
- ① 発足会議に参画した胃ろう造設、交換の5施設がこの1年間を評価する。とりわけネットワークとしての役割の評価をし今後の展望(経営サイド・医師・看護師など立場ごとに)を検討する。多摩市胃ろうネットワーク図でネットワークの医療機関の機能役割は整理されているが今後の地域連携パス

(摂食嚥下の連携パス、胃ろう造設管理の連携パス)を目指すに当たり、地域、エリアを多摩市から近隣多摩エリアへの拡大が必要であり、また本来目的であるセーフティーネットワークとしての機能を持つようなネットワークを構築するためにも組織体制を拡大再整備していく。図 1.参照

- ② 患者・家族・地域のニーズを汲み取り、考えられる受け皿の検討。フェイスツーフェイスに始まる多様なコミュニケーション手段の構築であるが目指すはポータルサイトの構築の可能性を探ることである。患者家族のニーズあるいは評価、医師(病院、在宅医療支援診療所など)の技量などの評価、看護・介護サイドの評価を組織的かつ体系的に行うため整理が必要。
- ③ この種の新しい医療技術がもたらすマーケット条件が確定できないため、多くの関係者に迷いが見られる。ステークホルダーがどのようなマーケットと見ているか、どのようなコンソーシアムによりこのマーケットを確立できるか、その可能性を探る。ここでは医師の技術概念以上に関係概念・地域概念・在宅医療のフォーカストが必要と思われる。以上①～③の課題に対し受容性の確認、促進要因、阻害要因を明らかにし、多摩市胃ろうネットワークのより現状に即したシステムを図る。
- ④ 多摩モデルの提案 (図 1 参照)

このような情勢を踏まえ、多摩南部地域病院は地域医療支援病院の新たな役割として地域医療ネットワークの構築に、積極的かつ主体的にかかわる連携モデルとして図 1.「多摩モデル」を提案する

図 1. 多摩モデル



この研究は財団法人 在宅医療 勇美記念財団の助成金による研究です。

***添付資料**

1) 多摩胃ろうネットワークホームページ

- ① ネットワークの概念図
- ② 5病院の相談窓口と対応可能な処置
- ③ 多摩胃ろうネットワークの紹介 代表挨拶・発足と今後
- ④ 胃ろうの造設と管理
- ⑤ 胃ろう造設・交換用診療情報提供書
- ⑥ PEG 造設に伴う合併症
- ⑦ 摂食嚥下障害への対応
- ⑧ 適切な栄養剤を選ぶために
- ⑨ セミナー開催予定・終了セミナーの資料

2) アンケート結果(1回から4回のセミナー)

3) 市民公開講座の結果

- ① アンケート結果の要約
- ② 第1回市民公開講座のまとめ
- ③ 第1回市民公開講座実施要領

4) 多摩胃ろうネットワークの手引き

- ① 多摩胃ろうネットワークの紹介
- ② 胃ろうの基礎知識
- ③ 摂食嚥下について
- ④ 栄養剤の選び方
- ⑤ 合併症の対策と処置
- ⑥ 胃ろう造設交換用診療情報提供書サンプル
- ⑦ PDN の紹介(日常のケア・相談室の案内など)

2006 年度勇美記念財団在宅医療助成研究完了報告書

報告書の公表方法

終了

平成 18 年 10 月 東京都福祉保険医療学会誌 2006(10)P128-129

平成 18 年 11 月 平成 18 年度東京都福祉保健医療学会 発表

平成 19 年 1 月 南多摩医療圏地域保健医療フォーラム パート 7 発表

平成 19 年 PDN 通信新年号に「多摩市胃ろうネットワークの構築」誌上発表

予定

平成 19 年 9 月 第 18 回日本在宅医療研究会 在宅医療連合大会 2007

平成 19 年 PDN 通信秋号に上記同様テーマで誌上発表予定